

弁護士が解説します



自衛隊配備が進む先島諸島

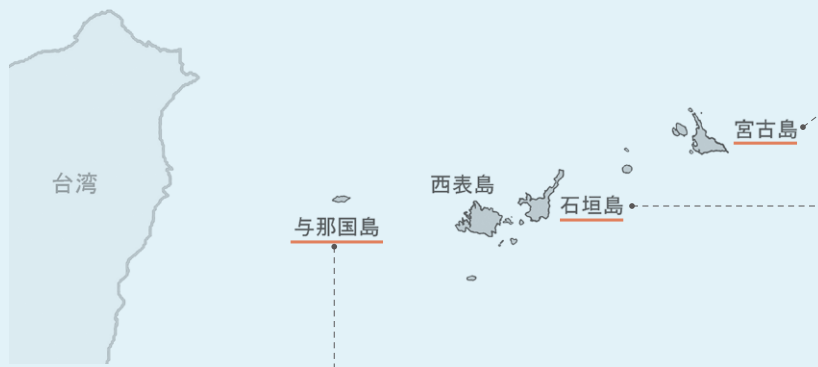
——様々な不安と隣り合わせの住民生活を現地レポート

弁護士 前田 ちひろ

2024年8月26日から29日にかけて、先島諸島での自衛隊基地配備状況について学ぶため、沖縄県先島諸島に行ってきました。

「戦争のできる国づくり」を進める日本の状況

2012年12月	第2次安倍政権成立
2013年	秘密保護法成立
2015年	集団的自衛権を容認する安保関連法成立
2022年	安保関連三文書閣議決定 …先制攻撃も可能となる



台湾有事と参戦準備、先島諸島の軍事基地化

沖縄県には、もともと米軍基地がたくさんあり、米中戦争が勃発すれば立地的にも沖縄県内の米軍基地は戦争の最前線になります。日本が先島諸島での自衛隊新規配備を進めているのは、米中戦争の最前線となることを意識してのことです。

先島諸島の住民をとりまく状況

先島諸島にある自衛隊基地から中国本土への攻撃が行われると、中国からみて先島諸島は当然反撃の対象となります。先島諸島の住民にとって自分の生活領域が戦場になるわけですが、国は、住民の訴えへの傾聴はおろか、基地内の設備の危険性などについて十分な説明をすることもせず、一方的に避難計画を押しつけるなどしており、その住民を軽視する姿勢は許されるべきではありません。

与那国島（'16.3 駐屯地開設）

〈配備状況・軍事化〉

- 沿岸監視隊
- 電子戦部隊（'24.3）
- 地対空ミサイル（'25年度用地取得）
- 移動式レーダー



与那国駐屯地



駐屯地からカタブル浜を望む
（軍港予定地）



レーダー施設（山の麓の中学校から撮影）
電磁波による周辺住民の健康被害の懸念



与那国島は台湾からわずか111km
（川崎から水戸くらいの距離）



自衛隊員と家族の流入増加（島人口の3割）、彼らは島に住民票を移し投票を行うため、従来からの住民の声は以前に増して政治に反映されにくくなっています。